

千葉県感染症発生動向調査情報

2016年 第17週 (4/25-5/1) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	17週	16週	15週	14週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千		葉		市		千葉県
		注意報	4/25-5/1	4/18-4/24	4/11-4/17	4/4-4/10	4/18-4/24	
			17週	16週	15週	14週	16週	
小児科	RSウイルス感染症		0	2	1	0	8	
	咽頭結膜熱	→	8	8	2	2	38	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		38	58	57	41	450	
	感染性胃腸炎		98	108	142	108	747	
	水痘		8	4	11	5	51	
	手足口病		0	1	0	0	3	
	伝染性紅斑		4	7	7	4	54	
	突発性発しん		14	15	16	9	76	
	百日咳		0	0	0	0	2	
	ヘルパンギーナ		1	1	0	0	2	
	流行性耳下腺炎		8	14	14	7	129	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		39	95	102	119	702	
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0	
	流行性角結膜炎		2	1	2	2	14	
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0	
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	4	
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	1	0	2	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(9件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	10歳代	画像診断等	レジオネラ症	男性	80歳代	病原体抗原の検出
結核	男性	50歳代	画像診断等	レジオネラ症	男性	80歳代	病原体抗原の検出
結核	女性	50歳代	病原体遺伝子の検出	侵襲性インフルエンザ菌感染症	男性	30歳代	病原体の検出
結核	女性	70歳代	病原体遺伝子の検出				
コレラ	女性	60歳代	病原体の検出及び毒素の確認	風しん	男性	40歳代	病原体等の検出

・第17週は、結核4件(71)、コレラ1件(1)、レジオネラ症2件(3)、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件(3)、風しん1件(2)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

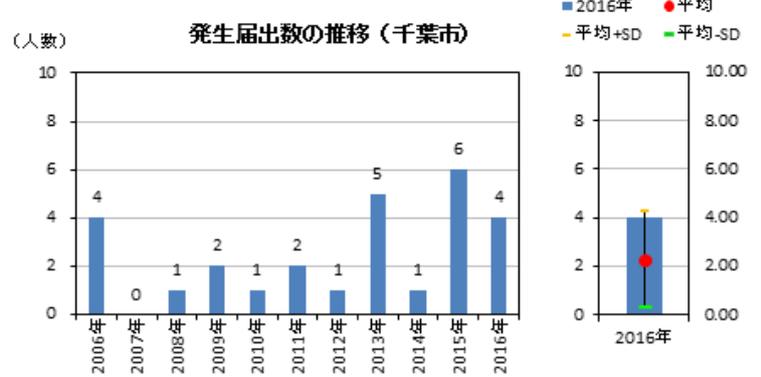
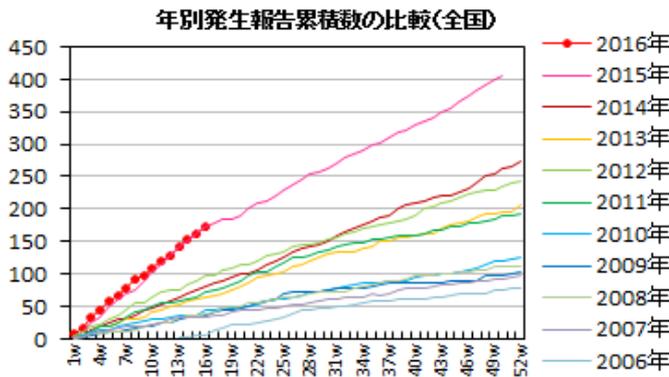
定点当たり報告数 第17週のコメント

<咽頭結膜熱>前週から横ばいで0.44のままとなった。過去10年の同時期と比べると最多のまま。

■ トピック ■

＜劇症型溶血性レンサ球菌感染症＞

全国レベルの第16週は、過去8年の同時期と比べると最多であった2015年に次いで多く、約2倍～約5倍となっています。都道府県別では、関東地方で多く、東京都、神奈川県、大阪府及び兵庫県、の順に多く報告されています。千葉県は全国第6位となっています。千葉市では2009年以降増加傾向にあり、2015年は過去10年で最多となりました。2016年は2月中に4件の発生届があり第17週現在の累積届出数は4件で、過去10年と比べると平均+SD付近となり多くなっています。



＜咽頭結膜炎＞

全国レベルの第16週は、過去9年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、島根県、鹿児島県、福井県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや少なめとなっています。千葉市の第17週は前週より横這いで0.44のままですが、過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。区別の発生状況は、花見川区(1.5/定点)で最も多く、同区の1歳で発生報告がありました。2015年第1週から第17週までの累積報告数(n=58)によると、性別では男性が56.9%(33名)、女性が43.1%(25名)で、年齢階級別では1歳(22.4%:13名)、4歳(19.0%:11名)、2歳(13.8%:8名)の順に多くなっています。

